

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ウマヅラハギ

学名 *Thamnaconus modestus*

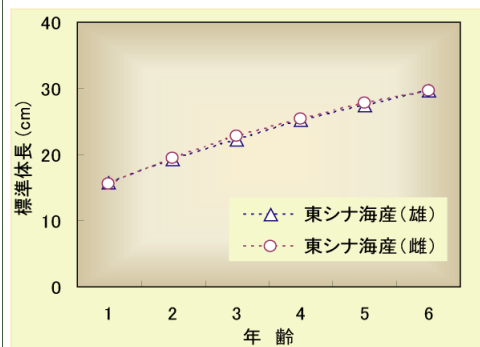
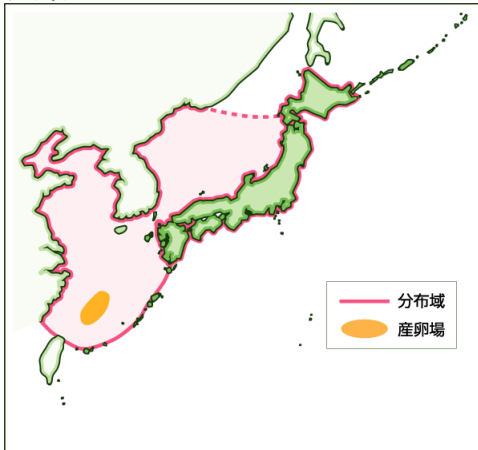
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 10歳
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 5～7月、魚釣島周辺海域、日本・中国・韓国の沿岸
索餌期・索餌場: 8月～翌4月、東シナ海・日本海の沖合域、日本・中国・韓国の沿岸
食性: カイアシ類、ヒドロ虫類、端脚類、オキアミ類、珪藻類、紅藻類
捕食者: 不明

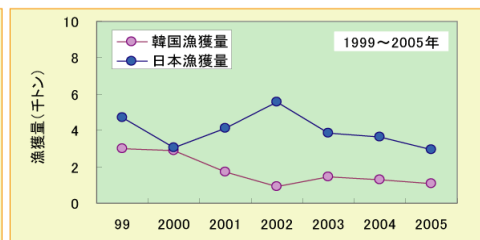
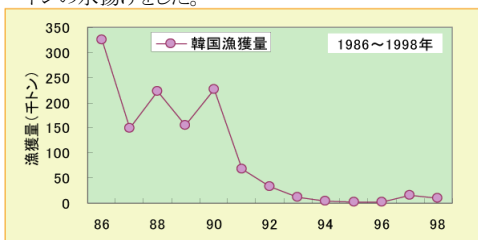


漁業の特徴

主に我が国の沿岸域で定置網やごち網等によって多獲される。盛漁期は冬季。

漁獲の動向

1960年代後半から各地に多量に出現するようになった。2005年の我が国沿岸域(九州西岸～日本海北部沿岸)と東シナ海での漁獲量は3千トン程度と推定される。東シナ海において最盛期(1986年)にはカワハギ類として中国が40万トン(FAO)、韓国が30万トン以上(「漁業生産統計」韓国統計庁)の漁獲があったが、その後漁獲量は減少して横ばい傾向にあり、中国は2004年にカワハギ類として200千トンの水揚げをした。韓国は2005年にカワハギ類として約1千トンの水揚げをした。



資源評価法

漁獲量の情報を収集し、経年変動傾向を検討した。東シナ海の沖合において着底トロールによる漁獲試験を行い、現存量を評価した(夏季2000～2006年5～6月、冬季2000～2001年1～2月・2003～2006年2～3月)。

資源状態

我が国の漁獲量は、水準は不明だが、やや減少傾向にある。東シナ海の漁獲の主体をなす中国の漁獲統計(カワハギ類)では、近年の漁獲量は最盛期であった1980年代の半分程度になっているが、より信頼性が高いと考えられる韓国の漁獲統計(カワハギ類)は、最盛期(1980年代)と比べて減少が著しい。動向はいずれも横ばいである。以上のことから、本資源全体としては、水準は低位、動向は横ばいと判断した。

管理方策

我が国沿岸での漁獲の主体となる定置網漁業は本種を積極的に漁獲しない。また、沖合域の漁業の漁獲量も大きくはないことから、資源に高い漁獲圧をかけていないと考えられる。しかし、我が国の漁獲量が漸減していることから、現状の漁獲量をやや抑制して資源の回復を図ることが適当と考えられる。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	2,900トン	0.8Cave3-yr	-	-
ABCtarget	2,300トン	0.8・0.8Cave3-yr	-	-

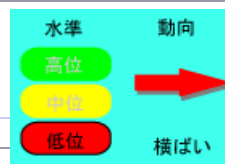
- ABCおよび漁獲量には沖合底びき網漁業の漁獲量を含めていない

資源評価のまとめ

- 我が国では1960年代に大発生したが、その後の漁獲は低水準で推移
- 韓国では最盛期の1980年代に漁獲量が多かったが、1990年以降極めて低水準
- 中国では最盛期の1980年代に漁獲量が多かったが、現在は半分程度の漁獲量で推移

管理方策のまとめ

- 我が国沿岸域で産卵する親魚をある程度確保し、資源の回復を図る



資源評価は毎年更新されます。